2025年度福井県立大学一般入試前期「国語」問題の出題意図

第1問

本問は竹内康浩『「生き方」の中国史 中華の民の生存原理』に基づき、文章の論理構造や著者の意図を読み取る能力を問う。

問 1　漢字問題。漢字の読み書きが正確にできるかを問う。

問 2　文脈に照らして、文中で繰り返し利用される用語の意味を、文中から探して抜き出す問題。重要なキーワードへの理解を早めに済ませることが目的。そのため、序盤の問題ではありながら答えは問題文後半にある。

問 3　漢文問題。(1)基礎的な語法の一つ、再読文字の「猶」〔なお～（の）ごとし〕を正しく訓読できているかを問う。(2)本文の内容をも参照しながら漢文の内容を理解し、短い言葉で答える問題。舜が天下よりも父を重んずる点を的確に読み取れているかが重要。

問 4　傍線部にある「公」と「私」を具体的に言い換えた言葉を文章中から見つける問題。字数制限を頼りに適切な言葉が見つけられるかを問う。

問 5　傍線部の内容から生じる結果を記した部分を文章中から見つけ、字数制限に従って簡潔にまとめる問題。傍線部直後の「それどころか、むしろ」に着目して、そこから後は話が先に進むと見抜くことができれば、傍線部はそれまでの内容の言い換え・解説だと気づくことができる。

問 6　傍線部にある比喩表現を、問題文の内容に即して自分の言葉で言い換える問題。人口に膾炙した『西遊記』由来の言葉を正しく理解しているかが問われる。空欄 II は二字熟語という限定があるため、正解となる言葉の種類は少数に限定される。

問 7　序盤の波線部を言い換えた内容を文章中から抜き指す問題。問題文の「今なら」という言葉に着目し、現代社会を論じて結論へと進む末尾部分に答えを見出すことになる。

問 8　記号選択問題。本文全体の趣旨を理解できているかを問う。

第2問

本問は川端康成「足袋」(『掌の小説』中の一篇）に基づき、短篇小説の読解能力を問う。

問 1　傍線部での問いかけを正しく理解できるか問う問題。

(1) 主人公が姉の「死にざま」に対してもつ印象を具体的な言葉で表現する問題。(2)を答えるための前提となる。

(2) 『もう一つの「死にざま」』を見つける問題。自ずから文章後半にあるもう一人の亡くなった人にかかわる記述から探すことになる。

問 2　「…思い出すことにしている。」という表現と傍線部前後の話題の対照性から、「私」が前者を後者により自覚的にあえて打ち消そうとする意思を読み取り、これを自分の言葉で説明する問い。読解力と共に、共通テストでは問えない記述力を問う。

問 3　作中で起きていることを的確に理解した上で、小説ならではの省略や場面展開の飛躍を把握し、そこで省略された内容を自分の言葉でまとめる。読解力と記述力の双方を問う。

問 4　傍線部で問われているのは「象徴的に示す事実」であることに留意し、二人の相似性を具体的に表現している箇所を見出す。表題への注目も鍵となる。

問 5　傍線部の理由を説明する問題。傍線部③を含む段落以降に見られる、主人公に対する家族の態度から正解を見出すことになる。

問 6　答えをあえて提示しない〈謎〉を孕む結語が読解できるかどうかを問う。

(1)　棺の中に入れられたものを「なんであったろうか」と問う「私」の立ち位置はどこにあるか、文脈のコントラストを踏まえて自分の言葉でその意味を答える。読解力と記述力の双方を問う。

(2) 記号問題。(1)を踏まえた上で、正しく自問の内容が理解できているかを問う。

※　この「出題の意図」についての質問・照会には回答しません。